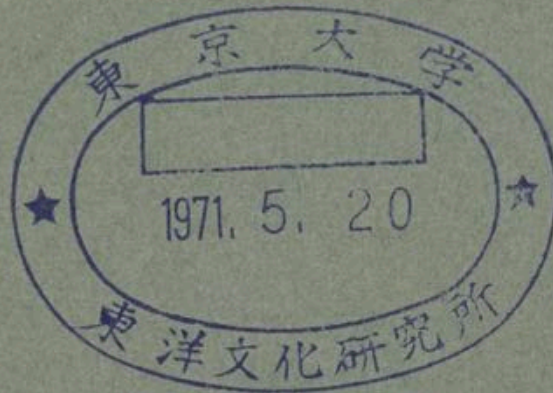


東京大学

# 東洋文化研究所概要

昭和42年6月



東京大学東洋文化研究所



東京大学図書

<10>6470040012

---

東京大学東洋文化研究所

展示室



東洋文化研究所



## 革

本研究所は、昭和16年11月26日、勅令第1,012号をもって、東京帝国大学に附置創設された。当初は哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の3部門で発足したが、官制公布後まもなく太平洋戦争の勃発により、拡張計画は中絶し、戦後ようやく昭和24年1月にいたって新たに3部門の増設を認められた。その結果、部門組織を細分して、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門および経済・商業部門の6部門に再編成し、ついで昭和26年に文化人類学と人文地理学、さらに昭和35年には研究体制を地域区分に対応させて整備する将来計画にもとづき南アジア部門、昭和39年に東北アジア部門の増設が認められ、計10部門を擁することとなった。なお、昭和41年には東洋学文献センターが附属研究施設として設置された。

## Ⅱ 目的と構成

本研究所は、日本を含むアジア諸地域の政治・経済・社会・文化などの組織的、総合的研究を目的としている。もちろん、現在の程度の規模をもってしては、広汎なアジア諸地域における諸般の問題を同時に究明することは望みえないので、研究者の専門にしたがって、重点的に課題を選ぶとともに、各専門分野の孤立を避けるため、合同の研究会によって研究者間に共通の問題意識を育てつつ、個別的には達成しがたい総合研究の実を挙げるよう努めている。また、研究陣容の補強を図るため、毎年の研究計画に従って、学内および学外からも専門研究者に研究を委嘱し、研究班に協力を求める方針をとっている。アジア諸地域の研究が、戦後はとくに問題山積の状況にあり、今後とも重要性が増大する一方であること、本研究所が現在、アジア研究のセンターとして、本学に

特設された唯一の研究機関であることを考え合わせると、この程度の組織機構では、まだいかにも不十分である。従来日本の学界に蓄積の乏しい領域を開拓すべき研究者の養成に努力しつつ、地域全体を対象とした初期の学科別部門編成から、さらに東アジア、東北アジア、東南アジア、南アジア、西アジアおよび内陸アジアのような地域区分にしたがって、これらの研究部門を整備し得る規模にまで陣容の拡大されることを期待している。

## 部門別教官配置表

### 汎アジア経済

教授 川野重任      講師 松井 透      助手 池端雪浦

### 汎アジア人文地理学

助教授 大野盛雄

### 汎アジア文化人類学

教授 泉 靖一      助教授 中根千枝      講師 築島謙三

助手 松谷敏雄      黒田和彦      青木 保

### 東アジア政治・法律

助教授 関 寛治      助手 加藤裕三

### 東アジア歴史

教授 荒 松雄      助教授 松本善海      佐伯有一      助手 石田米子

浜島敦俊

### 東アジア美術史・考古学

助教授 深井晋司      助手 甘粕 健

### 東アジア哲学・宗教

教授 小口偉一      講師 鎌田茂雄      助手 江島恵教

### 東アジア文学

教授 窪 徳忠      助教授 尾上兼英      助手 山之内正彦

### 南アジア政治・経済

教授 橋本秀一 (併) 山本達郎 助教授 山崎利男

助手 (休) 榎本暢子 月輪時房

東北アジア

助教授 鈴木 敬 助手 梶村秀樹

### Ⅲ 設 備

#### 1. 建 物

本研究所は、当初、本学構内に建物をもつことが予定されていたが、戦争の拡大により計画の実現が不可能となったので、暫時、本学附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いた。昭和23年4月1日、外務省所管の東方文化学院の解消をみるに及んで、同年7月に同学院東京研究所の所在地であった大塚に本拠を移すこととなり、外務省研修所と同居という暫定的な形で、旧学院の建物の一半を使用し、従来利用していた附属図書館研究室の一部を分室とした。このように、研究施設としてまことに遺憾の多い状況のまま20余年を数えるにいたったが、さいわい本学構内に建物を新築する計画が具体化し、その第1期工事の完成にともない、昭和40年10月に研究室の一部と事務室が移転した。さらに、昭和42年3月には第2期工事が完成したので、残りの研究室、書庫、図書事務室、および東洋学文献センターの移転の準備を進めており、6月中旬にその移転が完了する見込みである。

#### 2. 図 書

本研究所に収蔵する図書資料は総数260,000冊に及び、平均年間約5,000余冊ずつ増加している。収蔵するに至った主なものをあげると、創設当初、大木幹一氏から中国法制関係書を主とした漢籍45,000余冊の寄贈があり、附属図書館からも相当数の東洋学関係書が移管された。東方文化学院解消後は、同学院蔵

書10数万冊（和漢洋）をも使用することとなった。また、帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、戦後その蔵書2,000冊（和漢洋）の移管を受けた。文部省科学研究費交付金による購入書としては、昭和25年度に松本忠雄氏旧蔵の東亜外交関係書3,000余冊（和漢洋）、同26, 28年度に長沢規矩也氏所蔵の多数の希覯書を含む中国戯曲小説関係書3,000余冊（漢）があり、さらに同27, 28両年度には矢吹慶輝、清野謙次両氏の旧蔵書800余冊（洋）を購入したが、これは前記帝国学士院からの移管書とともに人類学・民族学関係の重要資料となっている。また昭和33年度から昭和40年度まで、文部省科学研究費による総合研究「アジア地域の社会」および特定研究「アジア・アフリカ地域研究」の一環として関係資料を多数蒐集した。昭和27年度から5カ年にわたり下中弥三郎氏より、主として戦後中国・朝鮮で刊行された人文・社会科学関係書4,000余冊の寄贈を受けたが、その後もこの関係の書を鋭意継続して蒐集している。なお、昭和38年に、東京銀行調査部から主として経済関係の図書15,000冊（和漢洋）の寄贈を受けた。

## IV 刊 行 物

### 1. 定期刊行物

- (1) 東洋文化研究所紀要 昭和18年12月に創刊、同42年度に第44冊から第46冊まで刊行する予定。第10～12の3冊と第25～28の4冊は、それぞれ本研究所創立15周年並びに20周年記念号であり、第41～44の4冊は創立25周年記念号の予定である。
- (2) 東洋文化 昭和19年10月に創刊し昭和24年5月にその第11号を発行した「東洋文化研究」を継承したもので、昭和25年2月に創刊、同42年度に第44号と45号を発行する予定。

## 2. 報 告 書

(1) 東京大学東洋文化研究所紀要別冊	発行年月
仁井田 陸 中国の農村家族	27. 8
周 藤 吉 之 中国土地制度史研究	29. 9
大 林 太 良 東南アジア大陸諸民族の親族組織	30. 10
結 城 令 聞 世親唯識の研究 上	31. 1
関 野 雄 中国考古学研究	31. 3
窪 徳 忠 庚申信仰	31. 11
仁井田 陸 中国法制史研究 刑法	34. 3
仁井田 陸 中国法制史研究 土地法・取引法	35. 3
米 沢 嘉 圃 中国絵画史研究	36. 3
結 城 令 聞 唯識学典籍志	37. 3
仁井田 陸 中国法制史研究 奴隸農奴法・家族村落法	37. 3
築 島 謙 三 文化心理学基礎論	37. 11
窪 徳 忠 庚申信仰の研究 年譜篇	37. 12
仁井田 陸 中国法制史研究 法と慣習・法と道德	39. 3
鎌 田 茂 雄 中国華嚴思想史の研究	40. 2
江 上 波 夫 アジア文化史研究 要説篇	40. 3
泉 靖 一 濟州島	41. 3
江 上 波 夫 アジア文化史研究 論考篇	42. 3

## V 東洋学文献センター

昭和41年4月、本研究所に、附属研究施設として、東洋学文献センターが置かれた。本センターは、とくに旧中国の政治・法律および文学・演劇関係の図書、戦後中国および朝鮮の刊行物を蒐集し、所蔵図書資料の目録を整備するな



にして、広く研究者の利用に資することをめざしている。なお、本センターでは、その事業および図書資料の利用について説明したパンフレットを近く発行する予定である。

## VI 海外学術調査

本研究所が海外で行なっている調査研究事業は、つぎのふたつである。

1 江上波夫元教授を団長とする東京大学イラク・イラン遺跡調査団は、昭和31～32年、34年、35年、39年、40～41年の5回にわたって、イラクおよびイランにおいて9ヶ所の古代遺跡の発掘を行ない、「文明の起源とその初期の様相」の問題という人文科学における世界共通の現代的課題の解明に努力し、また「東亜及び日本古代文明の源流としての古代イラン文明」というわが国にとって特別関心ある問題の究明に努めてきた。

昨年度よりわが国に将来した発掘資料、採集資料等の研究、報告に全力を投入している。昨年度は、イラン国デーラマン地方ハッサニ、マハレ、ガレクティ1号丘、2号丘の諸遺跡のうち歴史時代に属するものの研究、および上記諸遺跡の人骨の研究を行なった。前者は『デーラマン III』として、後者は『西アジアの人類学的研究 II』として出版される予定である。本年度は、昭和39年に発掘したイラク国のテル・サラサート2号丘の資料と昭和40～41年に発掘したテル・サラサート5号丘の資料を研究する計画である。

### 東京大学イラク・イラン遺跡調査団報告書

テル・サラサート I	33. 3
マルヴ・ダシュト I	37. 3
マルヴ・ダシュト II	37. 3
ファハリアン I	38. 3
西アジアの人類学的研究 I	38. 11
デーラマン I	40. 3

2 東京大学インド史蹟調査団は、山本達郎併任教授（団長）・荒松雄教授・月輪時房助手・大島太市研究委嘱を中心に、13世紀から16世紀に至るインドのイスラーム系建造物に関する調査研究を目的とし、昭和34、36年の2回にわたって、デリー周辺地域における諸遺跡、とくに墓、モスク、水の利用に関する建造物などを調査し、その後それらの整理、研究を行なってきた。その成果は、昭和42年3月に報告書の第1冊、『デリー；デリー諸王朝時代の建造物の研究 第一巻 遺跡総目録』として出版された。

本年度は、報告書の第2冊『第二巻 墓建築』を出版する予定であり、それと並行して、第三巻以降の出版準備のため作業と研究とを行なっている。作業内容としては、資料の整理、とくに各種遺跡の状況・平面・立面・断面等の諸図の作成が主たるものであり、研究面では、山本・月輪・大島が建造物の構造と様式上の問題を研究し、および荒が遺跡建造物の歴史的背景を究明している。

## 附表 1 昭和41年度研究会

昭和41年

- |       |                              |       |
|-------|------------------------------|-------|
| 4月14日 | 三孔布の正体をめぐって——秦の統一前夜の貨幣経済——   | 関野 雄  |
|       | 均田制と租佃制——とくに均田制の崩壊と関連して——    | 堀 敏 一 |
| 4月21日 | 明末江南の水利事業——所謂「佃戸の自立化」と関連して—— | 浜島 俊敦 |
| 4月28日 | ミッチェル報告書をめぐって                | 田中正俊  |
| 5月12日 | 共通課題——中国における仏教思想の受容過程        |       |
|       | 1, 廬山慧遠の法身観                  | 塩入 良道 |
|       | 2, 浄影寺慧遠の仏性思想                | 鎌田 茂雄 |
|       | 3, 吉蔵の批判的精神                  | 泰本 融  |
| 5月19日 | 日本における中国宗教の受容過程              | 野田幸三郎 |
|       | 六夜待と庚申待                      | 窪 徳 忠 |
| 5月26日 | マレー人は怠惰であるということについて          | 築島 謙三 |
| 5月31日 | 15世紀のパレンバン華僑                 | 和田 久徳 |
| 6月2日  | スカルノ体制の基本問題                  | 岸 幸 一 |
| 6月9日  | 毛沢東の思想——その形成過程の一考察——         | 野村 浩一 |
| 6月14日 | フィリピンの農村                     | 高橋 彰  |
| 6月16日 | 「第3種人」をめぐる論争——補遺——           | 竹内 実  |
| 6月21日 | 〈京都大学人文科学研究所との交換研究会〉         |       |
|       | 近代芸術のメディア                    | 多田道太郎 |
| 6月23日 | 中国革命について——1940年代後半をめぐって——    | 加藤 裕三 |
| 6月28日 | 「東洋文化」40号・41号合評会             |       |
| 6月30日 | 中国近現代史の方法論                   | 佐伯 有一 |

史学史のあつかい方について——中国の近代史研究を中心に——

		石田 米子
7月7日	中国旅行より帰って	米沢 嘉圃
		関野 雄
		鈴木 敬
9月22日	中国に自由はあるか——基本的人権の比較憲法——	針生 誠吉
9月29日	同治年間の条約論議	坂野 正高
	中国における社会主義経済の特質	常盤 絢子
10月6日	過渡期社会における階級と階級闘争	菅沼 正久
	人民公社における階級闘争	福島 裕
10月13日	プロレタリア文化大革命	福島 正夫
10月20日	古墳文化の起源論の最近の動向	甘粕 健
10月27日	沖縄の調査報告	中根 千枝
		小口 偉一
		窪 徳忠
11月10日	岡倉天心論	生松 敬三
11月15日	正統と異端	丸山 真男
11月17日	宗教団体の事業と財政について	井門富二夫
12月1日	フィリピンの土地改革について	滝川 勉
12月8日	民族系譜からみた華南史の構成	白鳥 芳郎
	成吉思汗勃興以前のモンゴル部族社会の構造	村上 正二
12月15日	インドシナにおける伝説ならび儀礼にあらわれた先住民と後来民との関係	大林 太良
	マラヤの経済と社会——その多重構造と経済発展上の諸問題——	
		山田 三郎
1月19日	エジプト政党史の諸問題	板垣 雄三
1月26日	ターク・イ・ブスターンの調査	深井 晋司

	デーラマン地方の調査——中国出土の三足土器との関連 について——	三宅 俊成
	北メソポタミヤにおける先史農耕村落址の調査	松谷 敏雄
2月2日	イラン高原における先史農耕村落址の調査	曾野 寿彦
	西アジア遺跡調査十年の成果について	江上 波夫
2月9日	インド「封建制」成立論について	山崎 利男
2月16日	東西文明比較論と植民地支配	松井 透
3月2日	パキスタンの1962年憲法について——イスラム条項と東西両州をめ ぐる問題——	荒 松 雄
3月9日	フィリピン革命の性格	池端 雪浦

## 附表 2 昭和42年度共同研究課題

◎印 研究担当

※印 研究委嘱

○印 非常勤講師

### 1. アジアにおける経済発展と政治に関する研究 班主任 川野

- |     |       |               |     |
|-----|-------|---------------|-----|
| (1) | 川野重任  | 台湾の経済発展体制     |     |
| (2) | 橋本秀一  | セイロンの乾燥地帯開発   |     |
| (3) | ※滝川勉  | フィリピンの経済発展    |     |
| (4) | ◎逸見謙三 | アジアにおける農産物貿易  |     |
| (5) | ◎坂野正高 | 中国における政治過程の特質 | その一 |
| (6) | ◎衛藤藩吉 | 中国における政治過程の特質 | その二 |
| (7) | 関寛治   | タイ国の政治過程      |     |
| (8) | ※萩原宜之 | マラヤの政治過程      |     |

### 2. ユーラシア大陸における社会組織の比較研究 班主任 中根

- |     |       |                        |  |
|-----|-------|------------------------|--|
| (1) | 泉靖一   | 朝鮮における社会組織             |  |
| (2) | 中根千枝  | チベットの社会組織              |  |
| (3) | ※村上正二 | 13・4世紀のモンゴル族の国家組織と社会構成 |  |
| (4) | 松谷敏雄  | 北方ユーラシア遊牧民の社会組織        |  |
| (5) | 青木保   | 北部タイの社会組織              |  |
| (6) | ※神田信夫 | 16・7世紀の満州族の社会構成        |  |

### 3. 西アジア研究 班主任 大野

- |     |      |          |  |
|-----|------|----------|--|
| (1) | 小口偉一 | バハイズムの展開 |  |
|-----|------|----------|--|

- (2) ※加賀谷 寛 現代イスラムの構造
- (3) ※板垣 雄三 アラブ民族主義の史的展開
- (4) 大野 盛雄 イラン農村の社会経済構造

#### 4. 古代西アジアの民族と文化

班主任 深井

- (1) ◎曾野 寿彦 古代西アジア原始農耕集落の問題
- (2) 松谷 敏雄 古代西アジアにおける農耕と牧畜の起源の問題
- (3) ※堀内 清治 建築史上よりみたる古代西アジアの都市
- (4) ※池田 次郎 古代西アジアの人種問題
- (5) 黒田 和彦 古バビロニアの歴史と文化
- (6) ※増田 精一 イラン高原における青銅器文化
- (7) ※杉山 二郎 パルティア美術と印度美術
- (8) 深井 晋司 ササン美術と隋唐時代の中国美術

#### 5. インドにおける支配体制と社会構造

班主任 荒

- (1) 山崎 利男 古代インド社会の変貌
- (2) 荒松 雄 中世インドにおける政治権力と宗教
- (3) 松井 透 イギリス植民地支配とインド社会
- (4) 山崎 利男 英領インドにおける司法制度
- (5) 榎本 暢子 イギリス帝国主義支配と土地制度
- (6) ※中村 平治 独立後インドの政党政治の諸段階
- (7) ※古賀 正則 独立後インドの土地制度の変革過程
- (8) 荒松 雄 パキスタンにおける政治と社会
- (9) 中根 千枝 現代インドにおける家族構造と血縁・婚姻組織

#### 6. デリー諸王朝時代の建造物の研究

班主任 荒

- (1) 山本 達郎 建造物よりみたインドおよびイスラーム文化の交

流と変容

- (2) 荒松雄 デリーに現存するサルタナット時代の遺跡の歴史的研究

7. 東南アジアの社会と文化

班主任 橋本

- (1) 山本達郎 ヴェトナムの村落と土地制度  
(2) ※和田久徳 東南アジア華僑社会の変遷  
(3) 築島謙三 マレー人とサルタン制  
(4) ※岸幸一 インドネシアの村落  
(5) 池端雪浦 19世紀におけるフィリピンの社会構造の変化  
(6) ※高橋彰 フィリピン農村構造の研究  
(7) 橋本秀一 ノックスの見た17世紀のセイロン社会

8. 中国における政治機構とその基礎過程

班主任 佐伯

- (1) ※松丸道雄 殷周時代の国家構造  
(2) ◎関野雄 先秦諸国の経済機構  
(3) ○小倉芳彦 戦国秦漢期の政治思想  
(4) ◎西嶋定生 唐代良賤制の研究  
(5) ○堀敏一 中国古代末期の支配体制  
(6) ※柳田節子 宋代江南デルタ地帯の土地所有制  
(7) ※小山正明 明代税役制と農村の変化  
(8) 浜島敦俊 明清江南デルタ地帯の水利灌漑  
(9) ※田中正俊 明清時代における農村の階級構成  
(10) 松本善海 清代中期における保甲法の展開  
(11) ※西川正夫 清末民国初期における農村機構  
(12) 佐伯有一 中国革命前夜農村における土地関係



9. 中国の思想と宗教

班主任 窪

- (1) 江島 恵 教 中観思想の形成
- (2) ○泰 本 融 中国の論理思想と仏教論理学
- (3) ○塩 入 良 道 中国疑似経典と道教
- (4) 鎌 田 茂 雄 道教経典にあらわれた仏教思想
- (5) 窪 徳 忠 元代における仏道関係
- (6) ※野 田 幸三郎 日本仏教と中国仏教との比較研究

10. 中国絵画における伝統と創造

班主任 鈴木

- (1) 鈴木 敬 院体画風の成立
- (2) ※川 上 涇 中国画論の展開
- (3) ※戸 田 禎 佑 文人画様式の成立と発展
- (4) ※海老根 聡 雄 日本水墨画に及ぼせる院体画風について

11. 中国の思想と文学

班主任 尾上

- (1) ※高 田 淳 中国近代思想史における章炳麟の位置
- (2) ※野 村 浩 一 毛沢東思想の研究
- (3) ※新 島 淳 良 中国における「整風運動」の研究

——プロレタリア文化大革命の論理構造——

- (4) ◎前 野 直 彬 盛唐詩の成立
- (5) 山之内 正彦 中晩唐詩研究
- (6) ※木 山 英 雄 旧小説の世界
- (7) 尾 上 兼 英 明清小説の史的研究
- (8) ※竹 内 実 1930年代の文学
- (9) ○丸 山 昇 左翼作家連盟と周揚

12. 中国・朝鮮近現代史の研究

班主任 佐 伯

- (1) ※小 島 晋 治 太平天国革命の研究
- (2) ※中 村 義 洋務派および変法運動の研究
- (3) 佐 伯 有 一 労農運動と中国大革命
- (4) 石 田 米 子 中国民族解放運動史の研究  
——第二次国内革命戦争と抗日運動——
- (5) ※野 沢 豊 抗日戦争期の政治過程
- (6) ◎古 島 和 雄 中国官僚資本の形成とその構造
- (7) 加 藤 裕 三 新民主主義革命とその権力の形成過程
- (8) ※本 橋 渥 中国および朝鮮の経済成長とその機構の比較研究
- (9) ※常 盤 絢 子 中国における社会主義経済の発展の型
- (10) ※菅 沼 正 久 中国の流通経済
- (11) 梶 村 秀 樹 現代朝鮮経済政策

13. 東アジア史における日本文化の形成過程

班主任 泉

- (1) ◎西 嶋 定 生 古代東アジアにおける国際的政治機構
- (2) ◎井 上 光 貞 日本における律令法の受容過程
- (3) 甘 粕 健 古墳文化より見たる日本古代国家の形成
- (4) 泉 靖 一 日本古代における社会組織の比較研究

14. 近代日本の思想と宗教

班主任 小 口

- (1) 小 口 偉 一  
◎柳 川 啓 一  
※井 門 富二夫  
※森 岡 清 美  
} 戦後における宗教集団の構造変化
- (2) ※宮 川 透 日本文化論

- 生 松 敬 三 日本文化論
- (3) ◎丸 山 真 男 近代政治思想におけるコトバの問題
- (4) 築 島 謙 三 外国人の日本観



昭和42年6月1日発行

編集兼  
発行者

東京大学東洋文化研究所

東京都文京区本郷7丁目3番1号

電話(812)2111(大代表)

印刷・製本

株式会社 三陽社

東京都板橋区板橋4-47-7